教科	地歴	科目	世界史Ｂ			単位数	３
学科	普通科	履修学年	３	コース	文系	必修・選択	必修
教 科 書	『詳説世界史』（山川出版社）						
副教材等	『グローバルワイド　最新世界史図表』（第一学習社）						

学 習 目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
指導の重点	①　基本的な歴史用語について、歴史的文脈の中で理解させる。 ②　歴史から学び、現在の諸課題に取り組む姿勢を養う。 ③　歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める指導を行う。 ④　センター試験・国公立二次入試・私立大入試に対応できる力を身につけさせる。

	学期（時数）	学習項目	学習内容（学習活動）	評価方法
学習計画	１学期（30）	第 11 章 欧米における近代社会の成長 第 12 章 欧米における近代国民国家の発展 第 13 章 アジア諸地域の動揺 第 14 章 帝国主義とアジアの民族運動	産業革命，フランス革命，アメリカ諸国の独立など，18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的，政治的変革を扱い，産業社会と国民国家の形成を理解させる。 世界市場の形成，ヨーロッパ諸国のアジア進出，オスマン，ムガル，清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い，19 世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解させる。ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応を扱い，19 世紀後期から 20 世紀初期の世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解させる。	授業の取組み 課題 定期テスト
	２学期（36）	第 15 章 二つの世界大戦 第 16 章 冷戦と第三世界の自立 第 17 章 現代の世界	二つの大戦と総力戦，ロシア革命とソヴィエト連邦の成立，大衆社会の出現と全体主義，世界恐慌と資本主義の変容，アジアの民族運動などを扱い，20 世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解させる。 米ソ冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と紛争，平和共存の模索と多極化の進展を扱い，冷戦期の世界の動向を理解させる。 市場経済の世界化，東欧諸国の民主化と冷戦の終結，ソヴィエト連邦の解体，アジア経済の急成長，地域統合の進展などを扱い，１９７０年代以降の世界と日本の動向を理解させる。	授業の取組み 課題 定期テスト

	３学期 （30）	〔特別編成授業〕 （１）１・２学期で学んだ学習内容の復習と発展学習 （２）センター試験や各自の進路に応じた個別学習	１・２学期の総合評価
計９６時間（５５分授業）			

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準と評価方法	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	世界の歴史から課題を見いだし，文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を，我が国の歴史と関連付けながら理解し，その知識を身に付けている。
	［評価方法］ 以上の観点を踏まえ ・　授業の取組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など） ・　レポート ・　定期テスト などから、総合的に評価する。			
学習のポイント	・　世界史は決して暗記科目ではありません。歴史的出来事の発生原因や背景，経過などを学ぶ学問です。なぜその出来事が起きたのか，なぜそのように経過したのかといった，「なぜ」という視点を忘れずに学習していこう。 ・　世界史は過去の出来事だけを扱った科目ではありません。現在とのつながりをもった過去（歴史）を学ぶのです。現在の出来事に関心がなければ，歴史をより良く見通すことができません。日頃から，今起きている事件やニュースに興味・関心を持とう。			